



# 地域おこし協力隊 活動状況報告



こんにちは。地域おこし協力隊・常室ラボ担当の青木詔子です。

コロナ禍で一旦足踏みすること余儀なくされた昨年。5月からひとつのプロジェクトを始めました。今回はそのプロジェクトについて、この場をお借りして報告させていただきたいと思います。

それは、常室ラボからお弁当を届ける地産地消プロジェクト「ラボ弁」です。

同じ地域おこし協力隊・常室ラボ担当の鹿戸さんと常室力フエを運営する三村さんの力を借りながら、「誰かと誰か」「何かと何か」「何かと誰か」がつながったらいなという想いを込めて地域の食材を使ったお弁当を役場を中心に近隣の施設へと月に1度ほどのペースでお届けしてまいりました。

ありがたい事に毎回100個前後のご注文をいただき、嬉しい悲鳴をあげながらも自



分たちが楽しみながら、そして何よりお届けした皆さんにも楽しんでいただけたのではないかと感じています。

8月から12月までの第5回〜第8回は地元出身の料理人の卵・近江実結さんも加わってもら

いラボ弁からコラボ弁と改め、彩りが豊かで味、深みともにパワーアップしたものをお届けすることができました。(第7回は上浦幌地区限定バージョンも行いました)

常室ラボで人を集めたイベントを行ったり積極的に来てくださるとは言いづらい状況になり、予定していた計画を延期せざるを得なくなりしました。しかし、自分たちにできることは何だろうとと考えて1歩外に踏み出してみた結果、想像を超える反響がありました。

そして、食材を提供してくださる生産者の方々とお話する中で、自分たちの元に届くまでの過程を



知ることにになり、食材に対してのひたむきな愛情に触れ、その大事な想いをきちんとつなげなければいけないなと身が引き締まる気持ちになりましたし、より一層ありがたみを感じると同時にわたし自身がこのプロジェクトを通して驚きや気づきをもたらすことになりました。また、近江実結さんのような食に興味のある若者との新たなつながりが生まれたり、今まであまり交流のなかつた方々ともお弁当を購入してくださったことをきっかけにお知り合いになれたのはとても嬉しい出来事でした。

もちろん、元々交流のあった方々ともお話す機会が増え、「頑張ってるね」「楽しみにしてるよ」「美味しかったよ」とお声がけしていただけたことが続いているモチベーションになりました。当初はこのプロジェクトが誰かのきっかけや小さな活力になればと思っていただいたのに、わたし自身が一番力をもらい、色々なきっかけを与えていただいたような気がします。

もう少し暖かくなったら、またこのプロジェクトを再開できるようにと今は力を蓄えているところです。春をはやく迎えに行きたいという逸る気持ちもありますが、グラデーションのように少しずつ色濃くなる季節を感じて雪解けを待つのも悪くないですね。

● 地域おこし協力隊 青木 詔子 (あおき しょうこ) 常室ラボ事業担当

- 最近ではもっぱら日本酒にハマっています。名刺に日本酒担当と付け加えたいくらいです。
- とある蔵元の方が「日本酒は微生物からできている産物でお猪口に注がれた後もぶちぶち生きている音がする。孤独にさせない酒。」と仰ってて、『孤独にさせない酒』っていいな〜と痺れました。
- お家時間のお供にぜひ愉しんでみてはいかがですか？



● 地域おこし協力隊の活動を紹介する隊員紹介 Facebook ページ

☆北海道浦幌町地域おこし協力隊 ⇒ <https://www.facebook.com/urahoro.chiikiokoshi>